

大阪大学図書館報

Vol.25 No.1/2 Oct.1991 (平成3年) 通巻104号

目次

- | | |
|---------------|-------|
| ○古い図書館 新しい図書館 | ○お知らせ |
| ○黒田重太郎文庫の意義 | ○日誌 |
| ○教官著作寄贈図書 | ○人事 |
| ○会議 | |

古い図書館 新しい図書館

麻生 誠

上野図書館の思い出

私にとって、図書館というと、まず頭に浮かぶのは、通称上野図書館、現在の名称は、国立国会図書館支部上野分室である。古びた建物、明治の臭いのするトイレ、寒々しい感じの食堂、貧乏学生たち、内向的でやや暗い感じの職員さん…皆私にとって懐しく貴重な青春の一ページとなっている。その頃、私は、本郷の教育学部大学院に在籍して、「わが国の近代化とエリート」という、当時としては幾分反動的なテーマに取り組んでいた。丁度戦後民主主義のイデオロギーが、マスコミやジャーナリズムをにぎわしていた頃であったので、私の専攻する教育学の領域では、平等主義が支配的でエリートという言葉さえタブー視されていた。そのため、私はオーバーに言うところ指導を求める師も、相談する友もない状態で、自分のテーマを手さぐりで探っていたのであった。

私は、3時頃になると必ず、鷗外の『雁』に出てくるお玉さんの住んでいた家の近くを歩きながら、不忍池の脇を通過して上野の山に登っていった。そして国立博物館を見て左折し、重要文化財「因州池田屋敷表門」前を通過してやがて図書館にたどりつく。そして中へ入ると、特別閲覧許可という大学院生の特権を利用して書庫に入っていくのだ。

私は、図書館に来て、書庫の中に埋もれている本を直接手にとって見ないと本とつきあった気になれない。本が私に「読んでくれ、読んでくれ」と呼んでいる。そんな心理状態になって始めて私と本とのコミュニケーションが始まるといった具合なのだ。本に対する一種のフェティシズムかも知れない。

私の研究テーマがきわめて漠然としたものであるから、幕末や明治始めからの古い講談本のような伝記から、わが国最初の紳士録に至るまでつきあいを拓げていかなければならなかった。

書庫の棚に並べられている本は、それぞれ時代の衣裳を着ている点でも面白い。たとえば、明治38年に刊行の石川啄木の処女詩集『あこがれ』は、文学士上田敏の序詩「啄木」を巻頭

に掲げ、与謝野鉄幹の跋文を載せた小さくきゃしゃな安い装丁で、ようやく世に出してもらったもののそのまま年老いたという様子で「薄幸な詩人の本です。読んでみて下さい」と訴えているようだ。こうして2・3冊の本を書庫から取り出して、面白くなさそうな顔をした、しかし本音は優しい司書さんに見せて登録をすませ薄暗い閲覧室で読むのである。

此の頃からすでに参考書をかかえた受験生も身近に多かったが、高名な学者から不遇な学者や学者の卵に至るまで多くの多種多様な人々が集まっていた。私は、高校生の頃、津田左右吉博士が『文学に現れたわが国民思想の研究』という不朽の大著をこの図書館を利用されて書かれたことを聞いていた。

やがて夜となって、食堂で安いライスカレーを一人で黙々と食べ、10ページほど書き足したノートのカバンに入れて図書館を出ると上野の山はもう暗くなっている。帰りは、寛永寺の脇を歩いて国電の鶯谷まで歩くのだ。

東京のなかで一番暗い悲しい過去を知っている上野の山、古びた図書館、書庫のなかの古色蒼然とした本たち、世の中をすねたようなしかし親切な図書館員たち、本を生命とした学者たち、行末もわからぬ我が身、こんなものがミックスして、大げさに言えば私の研究環境を作っていたのである。研究者のはしくれとしての私の原点は、やはりここをおいて外にないように思う。

私の青春時代とともにあった旧き良き時代の図書館は、微臭く奥まった棚に並べられた蠱惑的な本の山を中心にしてそれに魅せられた利用者と本の番人から成っていた。

薄暗いイメージがつきまとっていたが、図書の臭いと人間の臭いとがミックスした楽しい世界であった。しかし何といっても閉鎖的であり一部の人々のみの知的快樂の場所であった。そして「賭博師や守銭奴が少数であるように読書人は少数派」（ヴァレリー・ラルボー）なのであった。

第二国会図書館を「けいはんな」へ

私が青年から老年へ転じたと同じように、話ががらりと変る。現在、「けいはんな」に第二国会図書館を誘致する運動が高まりつつある。かくいう私も、関西文化学術研究都市推進機構の学術委員会のメンバーとして御協力申し上げている。

「けいはんな」は、東の筑波学園都市とよく比較されるが、その性格は非常に違っている。まず、行政単位が京都府、大阪府、奈良県という具合に三元的に関与しており、筑波のように茨城県下に、一つの都市を構成しているのは全く異なる。また筑波が国主導であったのに対して「けいはんな」は、どちらかという民間主導であり、国の研究機関に比べて民間企業の研究機関の数がきわめて多い。設立また設置を直前にこぎつけた主な機関をあげてみると、同志社大学、同女子大学、同短期大学、京都府花き総合指導センター、京都厚生年金休暇センター、国際電気通信基礎技術センター、関西外国語短期大学、大阪電気通信大学、(株)けいはんな「文化学術研究交流施設」、地球環境産業技術研究所、国際高等研究所、住友金属工業「ハイコオリティライフ研究所」、島津製作所「けいはんな研究所」、キャノン「関西中央研究所」、ハイタッチリサーチパーク、イオン工学センター、イオン工学研究所、奈良先端科学技術大学院大学などである。

一般的な印象として、民間主導のきわめて関西色の強いそして多様で自由な感じがする。反面統一性がとぼしく中心となる施設を欠いているという点でパッチ都市のマイナス面を持っている。

ここに、「けいはんな」の統合機関として第二国立国会図書館を設立する意味は大きいと思う。この図書館は、21世紀に向けてのハイテク情報化図書館となろう。ちなみに、主要国立図書館の国際比較を示しておこう。これを見ても、わが国に、国会図書館関西館があって

主要国立図書館の国際比較と動向

	国立国会図書館	米国議会図書館	英国図書館	フランス国立図書館	ソ連レーニン図書館	中国国家図書館
創立 (前身)	1948年 (1872年)	1800年	1973年 (1759年)	1789年 (1720年)	1925年 (1831年)	1912年 (1909年)
職員数	850名	4,874名	2,466名	1,275名	3,021名	約1,700名
床面積	14万5000㎡	24万9000㎡	17万㎡*	11万7000㎡	11万4000㎡	14万2000㎡
所蔵資料** (うち図書)	約833万点 (509万冊)	約8000万点 (1972万冊)	約4000万点 (1174万冊)	約3300万点 (1100万円)	約3200万点 (1300万冊)	約1400万点 (650万冊)
運営等	国会 衆参各議院 運営委員会	連邦議会 上下両院 合同委員会	芸術・ 図書館庁 理事会	文化省 運営審議会	文化省	文化部
財政規模	129億円 うち 施設費 17億円 ['90]	約518億円 (3億8000万ドル) うち 連邦予算96% (若干の自己 収益金含む) 信託基金等4% ['88]	約159億円 (6820万ポンド) うち 国の補助金 75% 自己収益金 25% ['87~'88]	約64億円 (2億9550万フラン) ['89]	約25億円 (1100万ルーブル) ['89]	約10億円 (2932万元) ['88]
対国家 予算比率 (防衛・国防 費を除く)	0.021%	0.052%	0.045%	0.020%	0.003%	0.012%
動向	関西館(仮称) 設立に向けて 調査中。	21世紀に向け て経営改革が 進行中。	1996年完成を めざし新館建 設中(11万 ㎡)。	新フランス図 書館を建設 中。総事業費 見積り2,500 億円。	大規模な増築 を計画中(8 万㎡、1995年 完成予定)。	1987年新館竣 工。国際的レ ベルの図書館 をめざす。

* 新館を含む。

** 所蔵資料については、算出方法が国により異なるので、参考数字である。

当然だという気がする。関西館の役割は次の3つとなろう。①情報図書館として、あらゆる分野の文献とそれに関する情報を、利用者がどこにいても、いつでもネットワークを通じて提供する。②アジア太平洋地域をはじめ、国境を超えた図書館サービスを提供し、国際的な図書館プロジェクトに参加する。③図書館情報ネットワーク、資料保存、研究開発、研修・交流など、内外の図書館協力の推進センターとなる。その規模は、約156,000㎡で、施設は、サービス・エリア、総合情報処理センター、資料保存施設、研究開発施設、大規模書庫等を備えたインテリジェント・ビルとなる。国会図書館関西館は、わが国の文化的セーフティーのためにも必要である。東京を大震災が襲うという場合を考えてみるがよい。さらに、「けいはんな」にあって、一大情報センター機能、研究支援等を担う必要不可欠な中核施設となり、これなくしては「けいはんな」のクオリティーは格段に低いものとなる。

21世紀の図書館たる国会図書館関西館は、未来型の電子図書館という性格を帯びるであろう。

京都大学の長尾眞教授の言われるように、文書や本がほとんどワープロで作られ、電子メールでどこにでも送れる時代となり、大量の文字データが光ディスクに入れられ、各個人の持つパソコンなどの機器で自由に読みとれるようになる。例えば、ハイパーテキストと称し、各種の関連情報・関連文書が自由に参照できるようになりつつある。さらに、マルチメディア・システムと称し、文字情報、音声・音楽情報、図形・画像・映像情報などが自由に組み合わせられ、それらの情報形態相互間の交換も容易に行われるようになった。長尾教授は、これらのほとんどの技術が未来型図書館に取り入れられるようになり、図書館が収集すべき情報の種類と範囲がこれらを含め格段に拡大されていくと予想している。このような電子図書館とでも名づけられる未来型の図書館と私の懐旧の図書館との共生は可能であろうか。私は「未来」と「過去」（歴史）というものは同じ価値を持つと信じている。このような考え方に立つと、新しい図書館はそのなかに、私の懐旧の図書館を抱いて成立してもらいたいと切に思う。

(あそう まこと 人間科学部教育計画論講座教授)

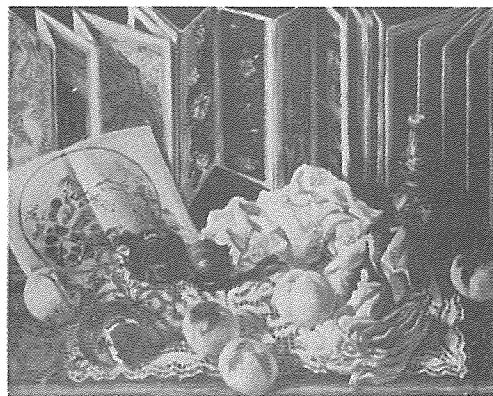
〈参考文献〉

『フォーラム「21世紀の図書館像」報告書「けいはんな」における文化学術研究情報拠点の形成にむけて』関西文化学術研究都市推進機構 平成3年7月
※掲載の表も同誌より

黒田重太郎文庫の意義

原 田 平 作

このたび洋画家であると同時に美術研究者としても知られた故黒田重太郎(1887~1970)氏の蔵書の主要部分が、ご遺族並びに関係者のご尽力により、文部省大型コレクション収書計画の一環として本学図書館に所蔵されることになった。洋書・和書に分類され、それぞれ395点及び102点の計497点で、一例をあげると洋書では、A. Mallerio『Odilon Redon』(Floury, 1923)、『L'Amour de l'Art』の製本雑誌(1923、1924、1930の各年度)、和書では、『鉄斎画譜』(中村悟一、大正2年)、内藤湖南『支那絵画史』(弘文堂、昭和13年)などがある。



黒田 重太郎 《多福多寿多男子》 昭和17年

どんな意義があるといえるのであろうか。ともかくもまず第一に言えることは、美術を含めた芸術関係の学科、即ち美学科が本学にできたのは昭和50年のことで、比較的新しいために蔵書は全体として少なく、特に近代関係の美術書は少ない。従ってこのような図書が所蔵されることは、先年同科に導入された上野文庫(インド美術研究並びに現代美術批評で知られた故上野照夫氏、1907~76、の蔵書)と並んで、本学の美術関係図書を豊かにするものであることであろう。

そして第二には、この図書の内容を考察することによって大正から昭和にかけての、美術的動向の一端を理解できるように思われることで、黒田重太郎氏は大正9年の『セザンヌ以

後』（日本美術学院）に始まって、『憧憬の地』『ヴァン・ゴッグ』『ゲランの印象』『モオリス・ドニと象徴画派』『欧州芸術巡礼紀行』『構図の研究』『グレコ』『油絵技法の変遷』『洋画メチエ・技法全科の研究』（鍋井克之と共著）『洋画鑑賞十二講』『素描色彩の研究』『画房襟筆』『近代絵画』『京都洋画の黎明期』『近代フランス絵画』『モディリアニ』等の著述を公刊された。雑誌などに発表された分をのぞいてこれだけあるのであるから、その知識は幅広く、時代を代表する研究者であったといっても過言ではないようにすら思われる。いや、総じてこの時代はまだ欧米美術の知識といっても今日程豊かだったわけではなく、創作を中心とした作家自身によっても、多くが日本に紹介された時代であったことを、

まず認識してかかる必要があるというものであろう。



黒田重太郎《湖雨欲晴》 昭和18年

それに何はともあれ氏は洋画家であった。作家の画風を理解しようとするに当たって蔵書を見る必要があることは、今更述べる迄もないであろうが、氏の場合には特に、①キュビズム（立体派）の日本への数少ない導入者の一人として、その構造を理解するためには著作物や蔵書を見る必要があるだろうし、②その作風に「日本の風土や花を立体派的構築的に表現したような」特徴や、「四条派の求めた花鳥諷詠と一派通ずるような」ところがあり、しかもそれが蔵

書にも反映されていて、東洋古美術関係も相当あるということになると、その蔵書や著作物は一層重要になってくるというものであろう。

今ざっと考えられる収納の意義はこんなところであるが、ふり返ってその画歴をみてみると、氏は大津市の生まれ、京都に住することが長かったとはいえ、明治25年の5歳の頃から成人する迄は大阪の学校に通い、大正13年には小出楯重（1887～1931）、国技金三（1886～1943）、鍋井克之（1888～1969）などと信濃橋洋画研究所を創設し、やがて全関西洋画協会などを創立した。従って大阪とも縁は深いし、本学文学部美学科の若山映子助教授（西洋美術史担当）は、京都市立芸術大学でその薫陶を受けたことがあるという。こんな点からしても、意義があるかもしれない。

また氏は大正10年10月に日本画家の土田麦僊（1887～1936）、小野竹喬（1889～1979）、野長瀬晩花（1889～1964）らと共に欧州遊学に出発し、先に記した『欧州芸術巡礼紀行』（大阪時事新報社編纂発行、大正12年8月）という書物を上梓させているが、これなどは氏の交流が日本画にも広がっていたことを如実に示すもので、黒猫会・仮面会・国画創作協会と続いた展開を考えさせるものである。

以上簡単ながら蔵書を中心として黒田重太郎氏の業績や美術界における情況などについて記してみた。

機会があれば残りの部分も収納されんことを願いつつ筆を措く。

（はらだ へいさく 教養部芸術学担当教授）

教官著作寄贈図書

—本館—

榎原 猛 (教・名誉教授)

プライバシー権の総合的研究

榎原 猛編

(法律文化社 1991)

大峯 顯 (教・教授)

親鸞のコスモロジー

大峯 顯著

(法蔵館 1990)

脇田 修 (文・教授)

秀吉の経済感覚

脇田 修著

(中央公論社 1991)

西村幸次郎 (法・教授)

中国の家族法

陳 明俠著、西村幸次郎訳

(敬文堂 1991)

平田 達治 (言文・教授)

白羊宮の火星

ホレーニア著、平田 達治訳

(福武書店 1991)

塚崎 智 (文・教授)

自然権と歴史

レオ・シュトラウス著、塚崎 智訳

(昭和堂 1990)

米原 謙 (教・助教授)

兆民とその時代

米原 謙著

(昭和堂 1989)

林 毅 (法・教授)

西洋中世自治都市と都市法

林 毅著

(敬文堂 1991)

中村 元保 (文・教授)

ドイツ市民悲劇成立の研究

中村 元保著

(朝日出版社 1991)

村上 信吾 (理・名誉教授)

多様体 (共立数学講座 19巻)

村上 信吾著

(共立出版 1969)

村上 信吾 (理・名誉教授)

連続群論の基礎 (基礎数学シリーズ 25巻)

村上 信吾著

(朝倉書店 1973)

中崎 昌雄 (基・名誉教授)

化学英語の活用辞典

中崎 昌雄編

(化学同人 1973)

—中之島分館—

高橋 理明 (微・教授)

高崎理明教授退官記念

大阪大学微生物病研究所麻疹部門業績集

(高橋理明教授退官記念会 1991)

堀 正二 (医・助手)

Microcirculatory disorders in the heart and brain

Hideyuki Niimi, Masatsugu Hori, Hiroaki Naritomi (ed.)

(Harwood academic publishers 1991)

医学部第二内科学教室

大阪大学内科教授 垂井清一郎 医学研究と随想

(垂井清一郎教授退官記念事業会 1991)

-吹田分館-

平田 好則 (工・講師)

溶接アークの物理

J. F. ランカスター編著 牛尾 誠夫
・平田 好則他共訳

(溶接学会 1990)

竹本 正 (工・助教授)

高信頼度マイクロソルダリング技術

竹本 正・佐藤 了平共著

(工業調査会 1991)

榎木 亨 (工・教授)

波と漂砂と構造物

榎木 亨編著

(技法堂出版 1991)

豊田 政男 (工・教授)

インターフェイスメカニクス-異材接
合界面の力学-

豊田 政男著

(理工学社 1991)

三宅 裕 (工・教授)

Proceedings of the 3rd Japan-China
Joint Conference on Fluid Machi-
nary, 23-25 April, 1990 Osaka, Vol.
1, 2Turbomachinery Society of Japan
The Japan Society of Mechanical
Engineers Chinese Mechanical
Engineering Society Chinese Soci-
ety of Agricultural Machinery

足立 吟也 (工・教授)

Handbook on the Physics and Chemi-
stry of Rare and Earths, Vol. 10-13K. A. Gschneidner, Jr. et al(ed.)
(North-Holland 1987-1990)

希土類物語 -先端材料の魔術師-

足立研究室編著 足立 吟也監修

(産業図書 1991)

山根 壽己 (工・教授)

材料組織学

山根 壽己他著

(朝倉書店 1991)

-薬学部分館-

佐々木喜男 (薬・名誉教授)

実例を中心とした高分解能核磁気共鳴入
門, 第2版 (廣川化学シリーズ I)

佐々木喜男 編著

(廣川書店 1991)

藤原 英明 (薬・助教授)

液晶材料

舩林 成和編, 藤原 英明他執筆

(講談社 1991)

-歯学分室-

赤井三千男 (歯・教授)

歯の解剖学入門 赤井三千男編著

(医歯薬・平成2)

浜田茂幸 (歯・教授)

Periodontal Disease: Pathogens &
Host Immune Responses.Shigeyuki Hamada, Stanley C.
Holt, Jerry R. McGhee. (ed.)(Tokyo; Quintessence Publishing
1991)

会 議

豊中地区運営委員会

3. 6. 19 (水) 14:00~16:00 (本館会議室)

協議事項：1. 附属図書館閲覧規程の改正案について事前協議した。2. 言語文化研究科構成員の運営委員会への参加について審議した。3. 「本館CD-ROMによる情報検索サービス実施要項」を審議・決定した。4. 夏季休業中の夜間開館の試行の実施について審議・決定した。

分館長会議

3. 7. 4 (木) 15:05~16:30 (本館会議室)

協議事項：1. 平成3年度予算配分案について協議した。2. 附属図書館閲覧規程の改正案について協議した。3. 言語文化研究科構成員の図書館委員会への参加、及び言語文化研究科を附属図書館長の選出母体としての部局とするか否かについて協議した。

図書館委員会

3. 7. 10 (水) 15:00~17:15 (本館会議室)

協議事項：1. 平成3年度予算配分案について審議し、原案どおり承認した。2. 附属図書館閲覧規程の改正案、及び同案の今後の審議日程について協議した。3. 言語文化研究科構成員の図書館委員会への参加について審議し、参加を承認した。また、言語文化研究科を附属図書館長の選出母体としての部局とするか否かについて審議し、これについては附属図書館長に一任することとした。

中之島分館運営委員会

生命科学図書館WG会合 [合同会議]

3. 3. 19 (火) 14:00~16:00 (歯学部大会議室)

協議事項：1. 生命科学図書館組織機構の整備について審議し、原案どおり了承された。2. 生命科学図書館委員会規程・館長選考規程について審議し、原案どおり了承された。

中之島分館運営委員会

生命科学図書館WG会合 [合同会議]

3. 5. 7 (火) 13:30~14:40 (歯学部大会議室)

協議事項：1. 生命科学図書館移転スケジュールについて審議し、原案どおり了承された。2. 中之島地区利用者サービスについて審議し、原案どおり了承され、実施にむけて、細部の検討を進めることとした。

中之島分館運営委員会

生命科学図書館WG会合 [合同会議]

3. 7. 17 (水) 14:00~16:00 (歯学部大会議室)

協議事項：1. 平成3年度中之島分館製本費予算配分について。2. 平成3年度資料費分担金について。3. 中之島地区臨時資料室への貸出図書・回覧雑誌について。審議し、1~3 原案どおり了承された。4. 附属図書館閲覧規程の改正について。

吹田地区運営委員会

3. 7. 22 (月) 15:00~17:00 (吹田分館会議室)

報告事項：7月10日(水)の図書館委員会についての報告があった。

協議事項：1. 平成3年度吹田分館学生用図書費の執行について。若干の質疑の後、承認された。2. 吹田分館利用の見直しについて。新館の利用対象者、研究個室、グループ閲覧室の利用時間等の、一部変更について了承された。3. 附属図書館閲覧規程の改正について。主旨説明があり、次回までに意見を伺うことになった。4. 「大阪大学附属図書館吹田地区運営委員会規程」の名称について。当分の間変更しないこととなった。

■■■■■ お知らせ ■■■■■

附属図書館本館のCD-ROMによる情報検索サービスを始めました

附属図書館ではCD-ROMによる情報検索サービスを本年7月1日から開始しました。本学の教職員、学生なら、どなたでも無料で利用できます。利用できるデータベースは次のとおりです。

1. CD-HIASK (朝日新聞全文記事情報 1989年)

1989年1月から12月までの朝日新聞東京本社朝・夕刊最終版からのニュース記事が全文収録され、件数にすると73,143件になります。また、1986年1月から1988年12月までの累積索引が181,969件収録されています。

特徴として、自由語による検索が可能です。

2. 電子広辞苑 第3版

文字、図版、色見本、鳥の鳴き声などが検索の仕方によってわかります。また、前方/後方一致検索ができるため、同じ語で始まるか、同じ語で終わるいろいろな言葉をすべて探すことが可能です。これは冊子体からは探せません。

3. 学術雑誌総合目録 1989年版

1枚のディスクに和雑誌・洋雑誌のデータが収録されているため、和・洋の区別を意識することなく同時検索が可能です。

利用者が直接検索できることが考慮され、近隣の図書館の所蔵データだけを表示させたりすることができ、従来の冊子体目録にはない機能をもっています。

4. 現代用語の基礎知識 1990年版が近く利用できる予定です。

利用できる時間帯は次のとおりです。

月曜日～金曜日 9:00～16:30

土曜日 9:00～12:00

検索は利用者自身が行います。附属図書館で用意した「CD-ROM版の使い方」を見て検索して下さい。夫々のデータベースの操作マニュアルは別に用意してあります。

夫々のCD-ROMは、CD-ROMキャディに入れてありますので、いちいちとりださずに利用できます。

中之島分館の業務再開等について

附属図書館中之島分館は、吹田地区新館建物への移転作業のため、本年8月1日から臨時閉館し、この間ご迷惑をおかけしておりましたが、このたび下記のとおり段階的に業務を再開することとなりましたので、お知らせいたします。

また、新館建物での業務再開を機に、同分館の名称については、通称である「生命科学図書館」を用いることになりましたので、併せてご案内申し上げます。

記

1. 暫定開館

- 期 間 平成3年9月24日(火)～10月26日(土)
- 開館時間 平 日：午前9時から午後5時まで
土曜日：午前9時から午後0時30分まで
- サービス内容 文献複写 図書貸出
参考業務(10月1日より。但、CD-ROMによる情報検索は9月24日より)
図書館間文献複写業務(10月1日より)

2. 正式開館

- 期 間 平成3年11月1日(金)～
- 開館時間 平 日：午前9時から午後9時まで
土曜日：午前9時から午後5時まで
- サービス内容 資料閲覧 文献複写
図書貸出 参考業務 その他

3. 移転先

〒565 吹田市山田丘2-3
阪急 北千里駅 徒歩20分
北大阪急行 千里中央駅 バス15分 阪大本部前下車すぐ

電話番号等

06-877-5111 (大学代表)

内 線	5800	医学情報課長	5803	雑誌情報掛
	5801	図書館専門員	5804	資料運用掛
	5802	図書受入掛	5805	参考調査掛

夜間直通 06-878-6436

F a x . 06-878-6438 (G3) 962-1800 (G4)
962-1900 (G4)

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

- | | | |
|----------|--------------------------|------------|
| 3. 3. 19 | 中之島分館運営委員会・生命科学図書館WG合同会議 | (中之島分館) |
| 3. 3. 25 | 図書館委員会 | (本館会議室) |
| 3. 4. 22 | 外国雑誌センター館会議 | (東京：如水会館) |
| 3. 4. 26 | 近畿地区国立大学図書館協議会総会 | (京都大学) |
| " | 近畿地区国立大学図書館協議会企画委員会 | (京都大学) |
| 3. 5. 7 | 中之島分館運営委員会・生命科学図書館WG合同会議 | (中之島分館) |
| 3. 5. 13 | 大型コレクション収集計画打合せ会 | (本館会議室) |
| 3. 5. 14 | 近畿地区医学図書館協議会例会 | (大阪市立大学) |
| 3. 5. 27 | 文部省主催国立大学附属図書館部課長会議 | (東京医科歯科大学) |
| 3. 5. 28 | 国立大学図書館協議会常務理事会 | (東京大学) |
| " | 国立大学図書館協議会受賞者選考委員会 | (") |
| 3. 5. 29 | 国立大学図書館協議会理事会 | (") |

3. 6. 5	中之島分館歴代分館長会議	(歯学部会議室他)
3. 6. 12	近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(奈良市：猿沢荘)
3. 6. 13	日本医学図書館協会総会	(日本歯科大学)
3. 6. 19	豊中地区運営委員会	(本館会議室)
3. 6. 20	国公立大学図書館協力委員会	(本館会議室)
3. 6. 26	国立大学図書館協議会準備理事会	(富山市：高志会館)
3. 6. 27, 28	国立大学図書館協議会総会	(富山県民会館)
3. 6. 28	国立大学図書館協議会総括理事会	(富山県民会館)
3. 7. 4	分館長会議	(本館会議室)
"	学術情報センター総合目録小委員会	(学術情報センター)
3. 7. 5	教養図書顧問教官との懇談会	(本館会議室)
3. 7. 10	図書館委員会	(本館会議室)
3. 7. 17	中之島分館運営委員会・生命科学図書館WG合同会議	(中之島分館)
3. 7. 22	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
3. 8. 26~30	目録システム講習会(地域講習会)	(本館会議室他)

■■■■ 人 事 ■■■■

館長の異動

中之島分館長

再任 鈴木 不二男(歯学部教授) 3. 4. 1~5. 3. 31

吹田分館長

再任 笠井 暢 民(工学部教授) 3. 4. 1~4. 3. 31

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
		(採用)	
	森田 康博	文部事務官 情報管理課会計掛	3. 4. 1
	服部 哲也	事務補佐員 サービス課 参考調査掛	"
	井上 万由美	" " 雑誌情報掛	"
	伊東 晶子	" " 資料運用掛	"
	村井 浄信	" " "	"
	新谷 元嗣	" " "	"
	上山 欣子	" 医学情報課 図書受入掛	"
	東海 かなお	" " 資料運用掛	"
	前川 耕三	" " 資料運用掛	"
	鴨川 郷	" 吹田分館 資料運用掛	"
	石田 朗	" " "	"
	乾 寿智	" " "	"
	行天 啓二	" " "	"
	古屋 智英	" " "	"
	森 彰子	事務補佐員 医学情報課 図書受入掛	3. 4. 16
	南竹 洋子	" " 資料運用掛	3. 6. 1
	山本 隆嗣	" 吹田分館 資料運用掛	3. 9. 11
		(昇任)	
情報管理課 会計掛 文部事務官	園田 厚生	医学部附属病院管理課年度第二掛備品契約主任	3. 4. 1
医学情報課長	福留 武士	広島大学附属図書館事務部長	"

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
情報サービス課 参考調査掛 文部事務官	和田山 祥子	国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課 文献図書係長 (配置換)	3. 4. 1
富山医科薬科大学教務部図書課長	高野 良弘	情報サービス課長	3. 4. 1
高知医科大学教務部図書課長	三浦 勝利	医学情報課長	"
大型計算機センター庶務掛長	佐藤 秀利	情報管理課 庶務掛長	"
医学情報課 資料運用掛 文部事務官	西 知子	情報サービス課 参考調査掛	"
情報サービス課長	袴田 次雄	一橋大学附属図書館情報サービス課長 (転任)	"
国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課 文献図書係長	瀬戸口 洋子	情報管理課 和書目録情報掛長	3. 4. 1
国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課 文部事務官	奥田 正義	情報サービス課 資料運用掛	"
奈良女子大学 附属図書館 受入係文部事務官	星屋 真	医学情報課 図書受入掛	"
情報サービス課 資料運用掛文部事務官	村上 健治	国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課 文献図書係 (所属換)	"
医学情報課 図書受入掛 文部事務官	松原美重子	医学情報課 資料運用掛 (辞職)	3. 4. 1
情報管理課 和書目録情報掛長	名倉 愛子		3. 3. 31
事務補佐員 医学情報課 資料運用掛	東海 かなお		3. 5. 15
" 情報サービス課 雑誌情報掛	井上 万由美		3. 7. 15
" 吹田分館 目録情報掛	竹田 美幸		3. 7. 31
		(退職)	
事務補佐員 情報サービス課 雑誌情報掛	松浦 キヨノ		3. 3. 30
" " 資料運用掛	鈴木 芳子		"
" 医学情報課 図書受入掛	松崎 一実		"
" " 資料運用掛	福田 勝也		"
" 吹田分館 資料運用掛	乾 寿智		3. 7. 10